

## 透析効率向上にむけての当院の取組み

長崎腎病院

○松尾和哉、高木伴幸、原田孝司、船越 哲

### 【背景】

当院では、2011年より日本透析医学会から発行される「わが国の慢性透析療法の現状」と当院の透析療法を比較し、 $kt/V1.6$ 以上を目指す取組みを実施している。

### 【目的】

透析効率向上のため行っている取組みの2011年から現在まで3年間の経過を報告する。

### 【対象・方法】

当院の透析患者371名について、生化学検査データをもとに、透析効率、溶質除去率、クリアランスギャップ等を算出した独自の透析効率評価シートを用いて、透析諸条件の検討及び背景因子について分析を行った。

### 【結果】

2011年時点と比較すると血流量（平均196ml/min→215ml/min）、透析膜面積（平均1.75 m<sup>2</sup>→1.90 m<sup>2</sup>）変更により、当院全体の $kt/V$ は、有意に上昇したが、全国平均 $kt/V1.48$ は達成できなかった。全国平均に達していない因子は透析時間で、全国平均4.04時間、当院平均3.66時間であった。

### 【考察】

独自の透析効率評価シートを用いることで、透析医療チーム患者指導や透析条件の見直しをすることが容易になったが、透析時間という因子を検討するためには、更なる患者背景因子（仕事、介護、認知度、重症度等）を考慮しなければならない。そのため、透析条件の検討に医療チーム全体で取組み、患者との信頼関係を構築する必要性が示唆された。